

# 横浜における持続可能な福祉社会 の構築に関する専門分科会

---



あらゆるものを受け入れる、  
もっと開かれたヨコハマへ。  
新しいものを次々と生み出せるヨコハマへ。  
開放的で自由な街に、心地よい風が吹き抜ける。  
OPEN。それは、みんなで創る  
未来のヨコハマの合言葉！

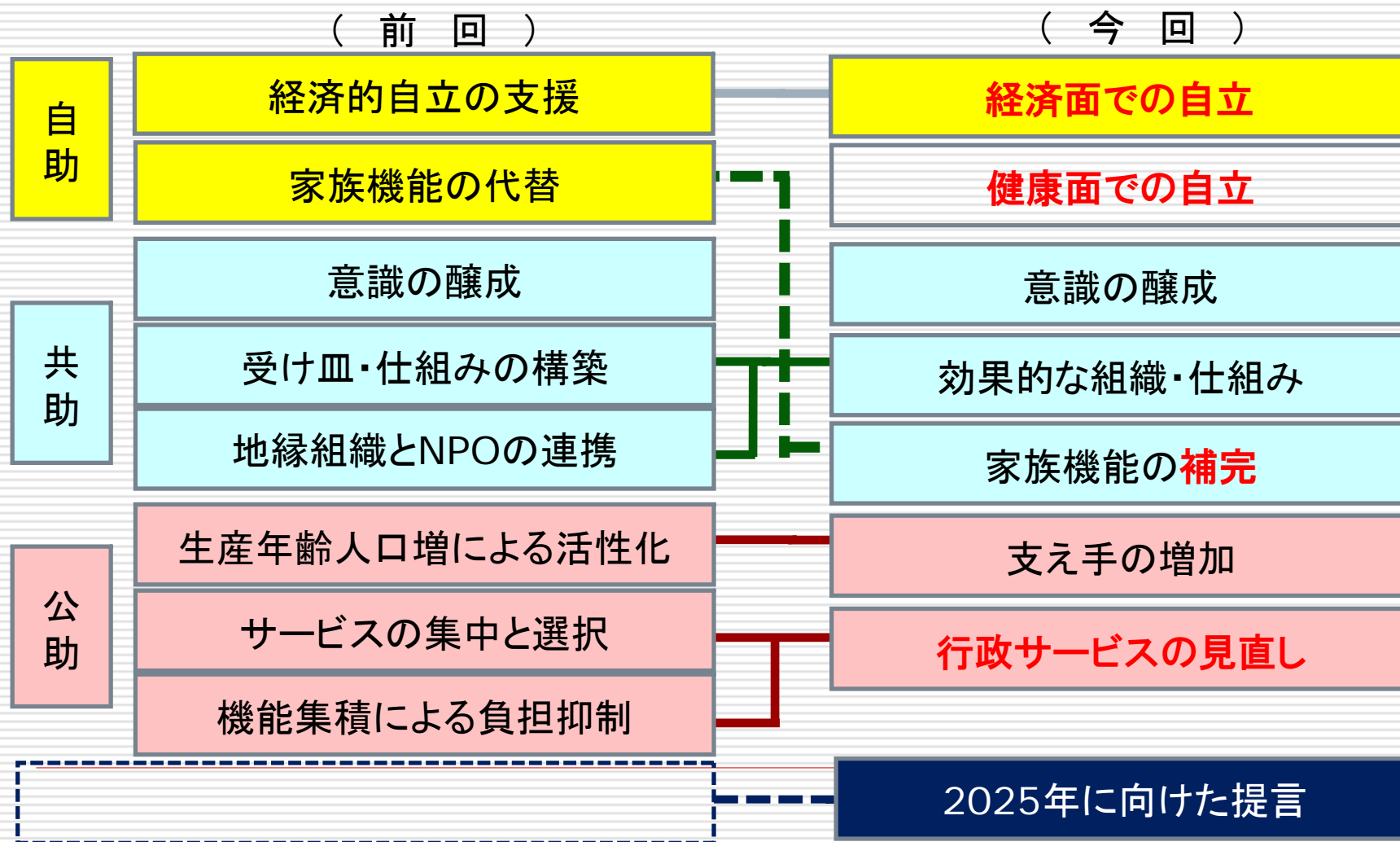
第3回 討議資料  
平成22年12月21日

## 前回の議論 —振り返り—

---

- ケアプラザをもっと活用したほうがよい
- 家族機能の代替は共助で考えるべき
- ITは、顔の見える関係の補助手段
- ゼロからのハードルは高く、すでにあるものを助長したほうが比較的容易
- 個人の資産活用には行政が介入、あるいはモニターしていくのはやや僭越なのではないか

# 持続可能な福祉社会構築の枠組み



# 持続可能な福祉社会構築の方向性

	(方向性)	(ポイント)
自助	健康面での自立	インセンティブづくり
	経済面での自立	現役化支援、所得確保や支出抑制支援
共助	意識の醸成	参加したくなるきっかけづくり 多様な参加方法、教育との連携
	効果的な組織・仕組み	地縁組織と志縁組織の連携、ICTによる補完、 多世代交流、様々な活動のランチ化
	家族機能の補完	活動の奨励・促進、集える場づくり、 住まい方の工夫
公助	支え手の増加	地域経済活性化、生産年齢人口の割合増加策
	行政サービス見直し	対象者と提供方法の見直し、全体最適化
2025年に向けた提言		取り組むべき課題、取組の姿勢

# 本日の論点① (公助の領域のあるべき方向性)

---

## 福祉社会の支え手を増やすには、どうしたらよいか

(検討の視点)

- 若年世代を惹きつけ、市内への流入を促進することが重要なのではないか。そのために、どのような施策が効果的か。
- 地域の労働市場を拡大するという観点から、地域で雇用を創出する効果的な仕組みはつくれないか。
- 地域活動等の財源となるよう、寄付を募り、活かしていく方策はどうか。

## 本日の論点② (公助の領域のあるべき方向性)

### (サービス水準を落とさずに)行政サービスを見直していくには、どうしたらよいか

(検討の視点)

- 選択と集中により行政サービスのメリハリを利かせる必要があるのでは。年齢要件で一律的に提供している行政サービスの見直しなど、真に必要としている人にサービスが提供できているか、改めて考える必要があるのではないか。
- 市の財政状況に対する市民の理解が必要ではないか。効果的な広報とは
- サービス単体での削減には限界もあるのでは。予防施策の展開、他の施策との連携により、効率的に行政サービス提供することで、市全体としての歳出を抑制できないか。

## 本日の論点③ (2025年への提言)

---

# 人口減少・超高齢社会に向けて取り組むべき課題とは何か

(検討の視点)

- 福祉社会を支えていくために、相互のつながりは必要不可欠。地域のキーパーソンを生業化したり、つながり促進のインセンティブづくりを進める。
- 超高齢社会にあった柔軟な働き方があってしかるべき。新たな価値観、新たな働き方の提示が重要ではないか。
- 生活の基盤となる住まいの在り方は非常に重要。収入の範囲内で、必要なサービスを受けながら住み続けられれば、市民は大きな安心感を持てる。

## 本日の論点④ (2025年への提言)

---

### どのような姿勢で取り組むべきか

(検討の視点)

- これから直面する課題は、多岐にわたり、また一つ一つが非常に困難な課題である。はじめから制度化するのは困難なのではないか。まずは事例の積み上げが必要である。
  - 横浜市には誇るべき資源が数多くある。これらの資源を最大限に使うべきではないか。
  - 民間でも活発に検討が行われている。様々な主体とともに、解決策を考えていくことが大切。
-